

聖徳太子のおもかげに会う 斑鳩

～1400年つづく和の心～

斑鳩のまちで、つみかさなる歴史が息づく姿を通じて、聖徳太子の面影に出会うことができます。

斑鳩町を訪れ、その歴史にそって旅すること、それは、聖徳太子の時代、1400年の悠久の昔から連綿と伝わる日本の心の原点にふれあうことです。

2026年の斑鳩町の「観光」イメージ

多くの観光客が法隆寺だけでなく、まちあるきを楽しみ、斑鳩の歴史のワクワク・ドキドキ感を体感しています。
新たな観光産業が根付き、古い町並みをいかした「にぎわい」のあるまちづくりが進んでいます。



町民の理解・参加促進

**観光客の拡大、リピーター創出のためには
町民のみなさんのご理解と積極的な参加・参画が不可欠です！**

観光客は地元住民の受け入れ姿勢やおもてなしなど「町の空気感」に敏感。
みなさんのご理解と積極的な参加・参画で、観光客の笑顔をはぐむ町の空気感を創り出せます。

**ようこそ元気な斑鳩へ！
郷土愛と誇りをもった町民一人ひとりが
「おもてなしの主演」**

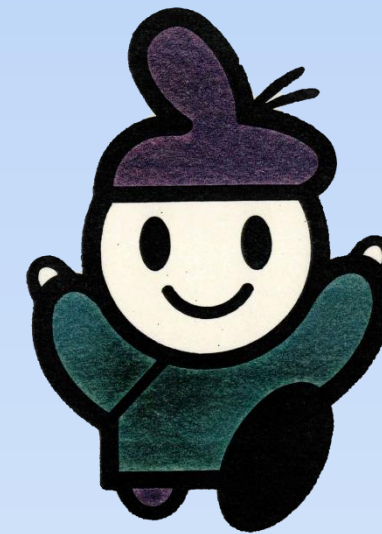
- 観光客に笑顔で接し、元気な声で「こんにちは、観光ですか？」とあいさつしましょう。
- 道に迷っている、何かを探している観光客にひと声かけてみましょう。

斑鳩町観光戦略

～まちあるき観光をすすめ、ワクワク・ドキドキするまちに～

概要版

平成29年3月



観光戦略の立案にあたって

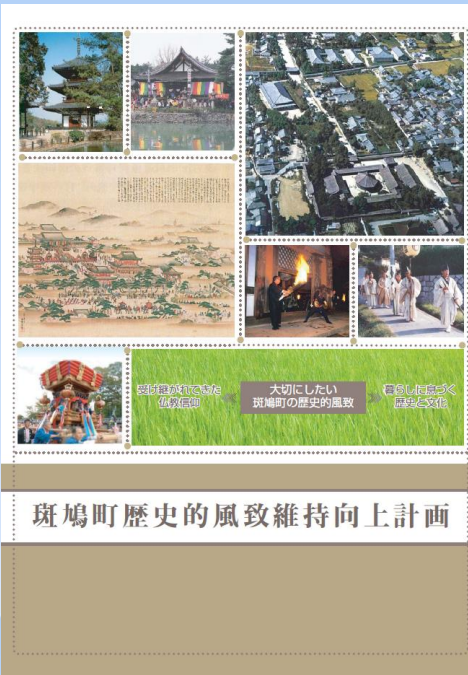
斑鳩町には、世界文化遺産である法隆寺・法起寺をはじめ、その始まりを飛鳥時代にもつ、多くの社寺があり、その営みは1400年にわたり続いています。

斑鳩町では、2014（平成26）年2月に、奈良県下の市町村で初めて国の認定を受けた「歴史的風致維持向上計画」を策定し、豊富な歴史的・文化的資源や自然環境が一体となった「歴史的風致」を後世に継承することを目指しています。

今回、斑鳩町の観光戦略を立案するにあたり、町内の観光資源の再確認から始まり、観光動向調査等を行い、地域住民の生活と一体となって形成されてきた歴史・文化を観光地としての価値として捉え、その価値を観光客にアピールすることができるよう、斑鳩町の観光振興に必要なとりくみの検討を行いました。

聖徳太子1400年御遠忌の2021年に向け、そして、その後も、斑鳩町において観光が重要な産業として育ち、交流人口の増加、さらには、「斑鳩の里」の知名度の向上につなげるために、本観光戦略を指針としてまいります。

なお、計画期間は2017年～2026年の10年間です。



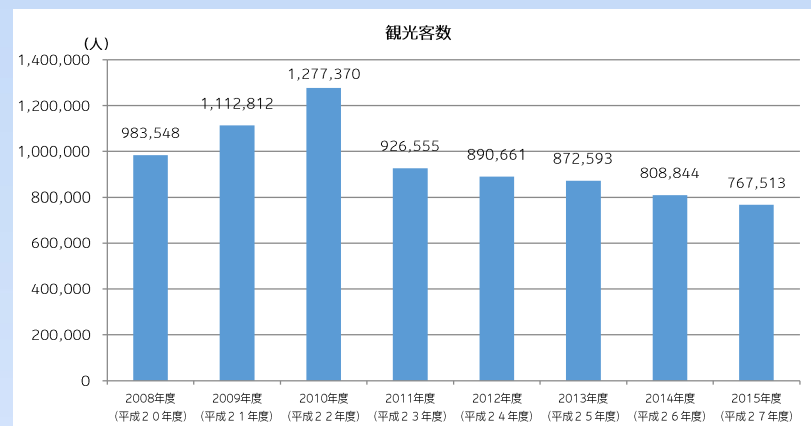
観光目標

「斑鳩町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2016（平成28）年3月）においては、数値目標が記載されています。

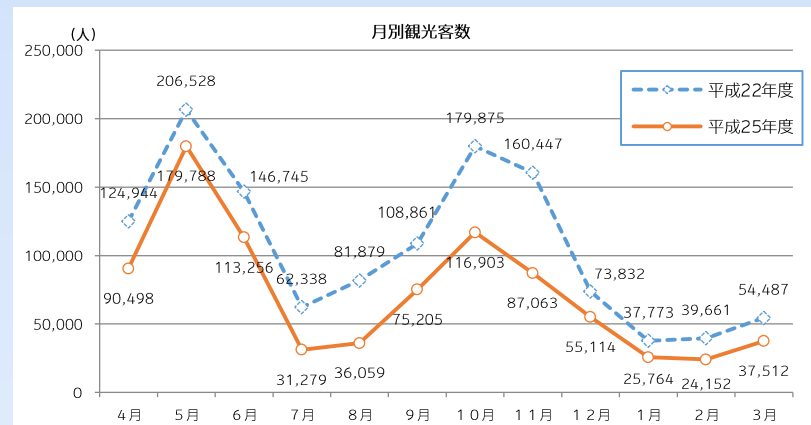
基本目標指標	現状 2014年度 (平成26年度)	目標 2019年度 (平成31年度)
観光客数	81万人	150万人
事業所数 ※経済センサス	800事業所	830事業所

観光客の動向

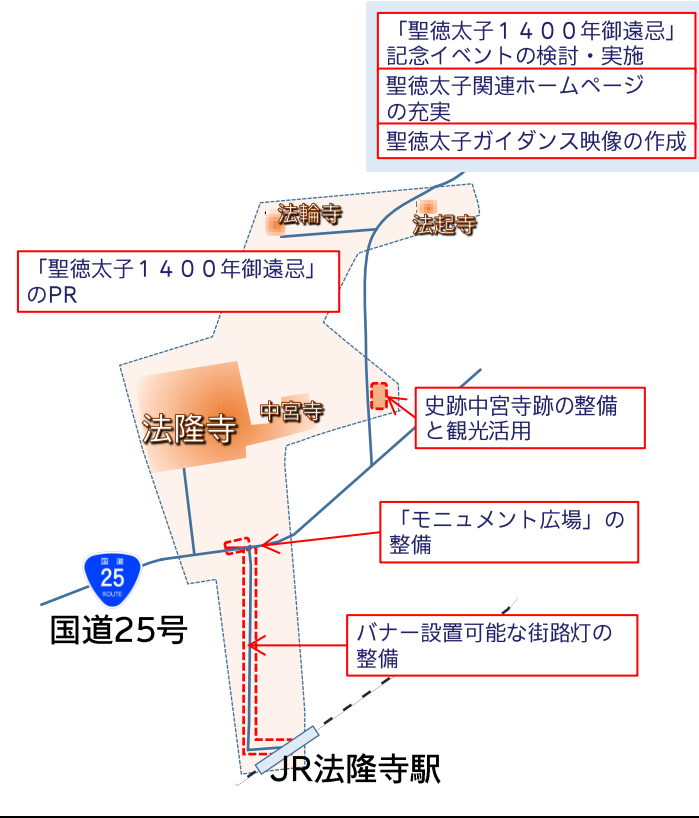
斑鳩町の推計観光客数は、平城遷都1300年祭が開催された2010（平成22）年度に128万人を記録した後は、2011（平成23）年度以降、80～90万人前後で推移しています。



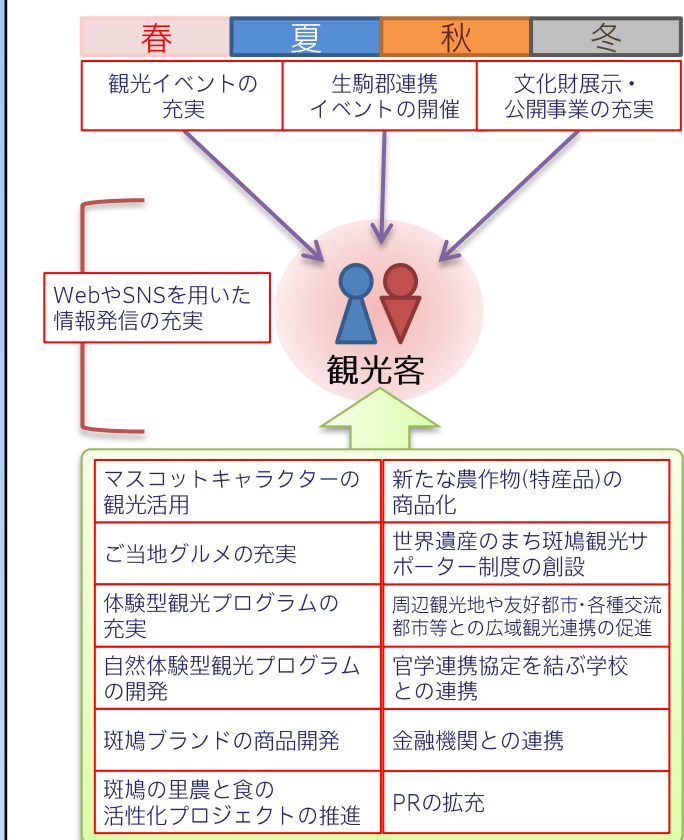
月別の推計観光客数は、5月が最も多く、次いで10月となっており、春と秋のシーズン型観光地となっています。



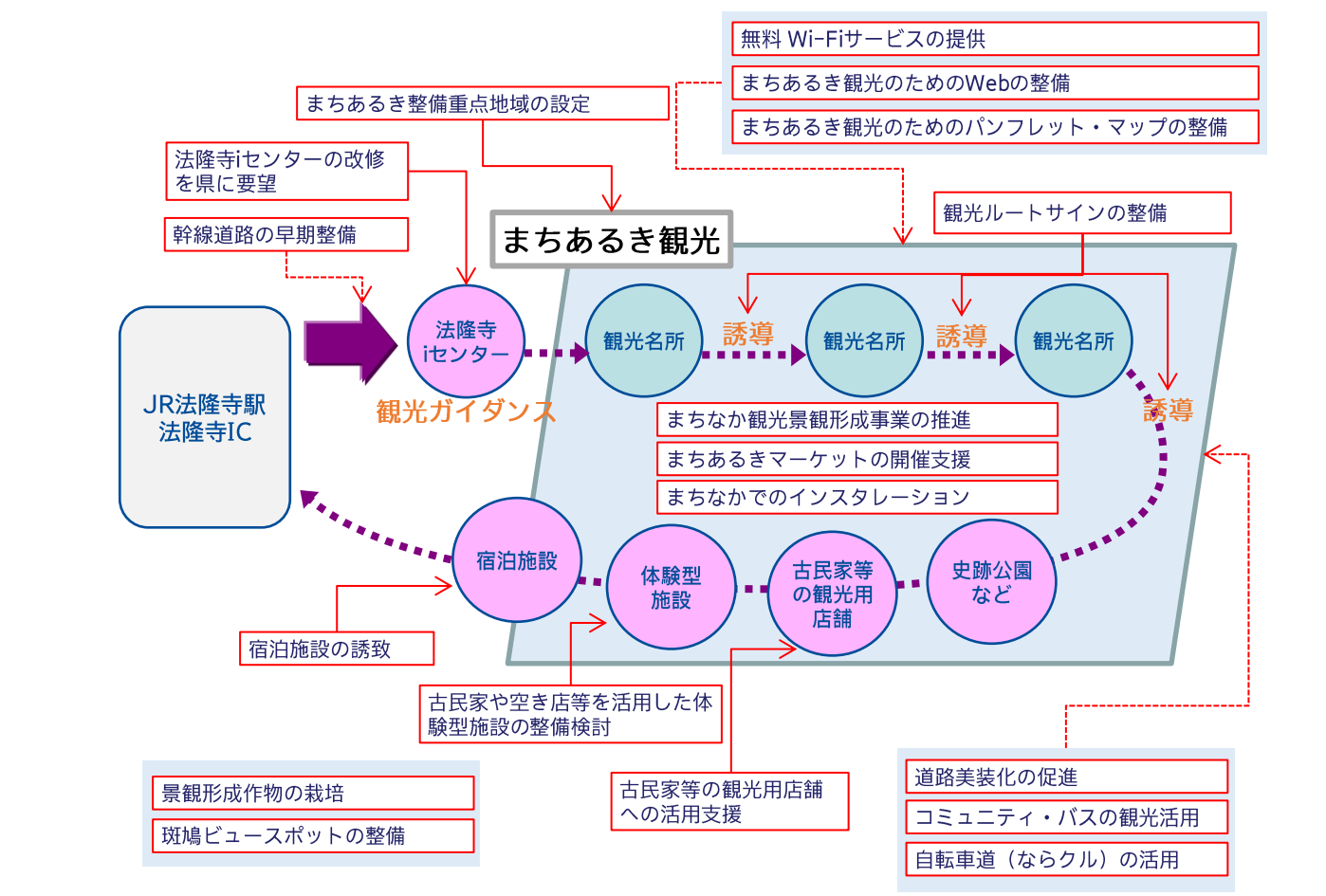
基本戦略① 聖徳太子の息吹を感じる演出づくり



基本戦略③ 魅力発信とリピーターづくり

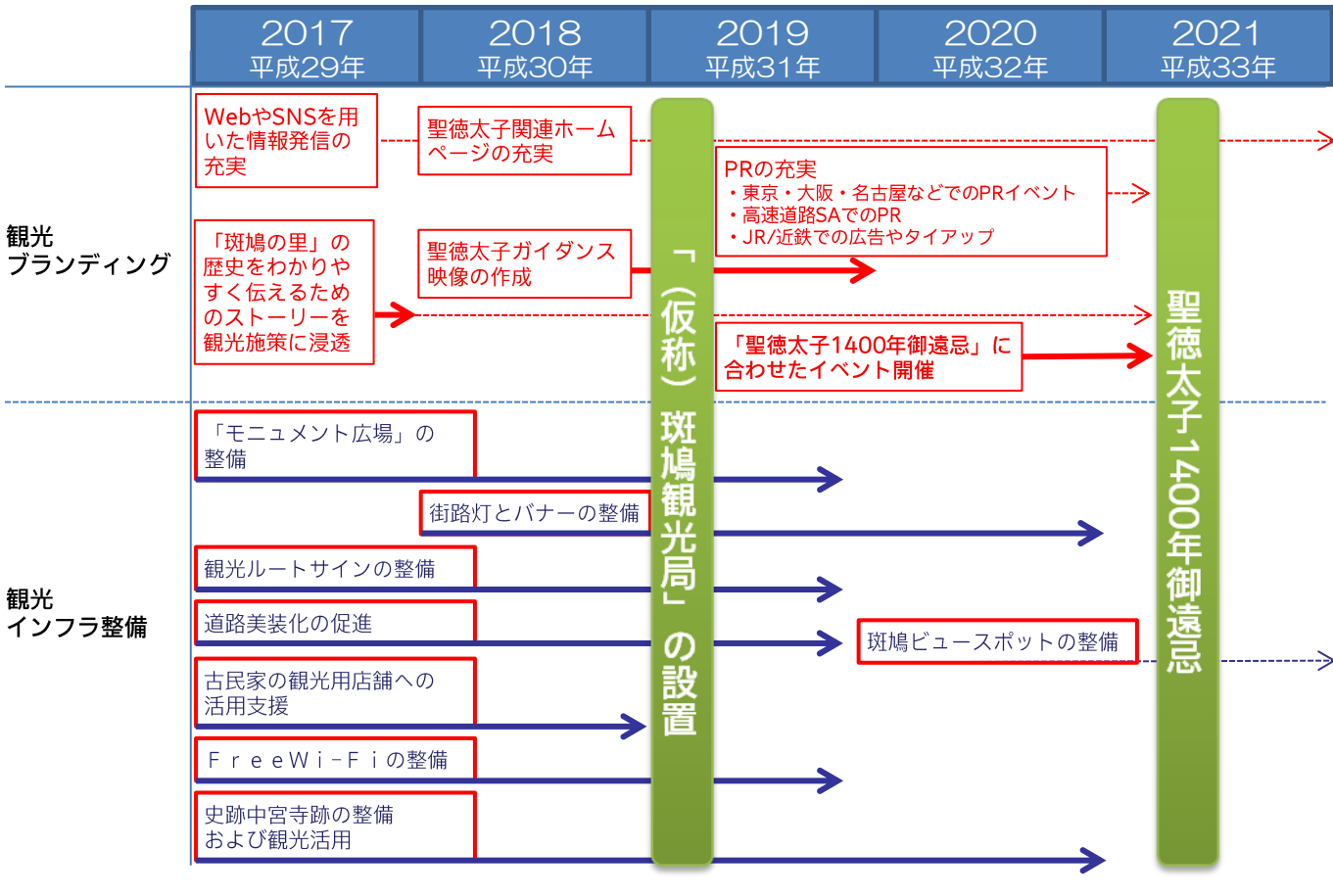


基本戦略② まちあるきを楽しむ斑鳩の里づくり



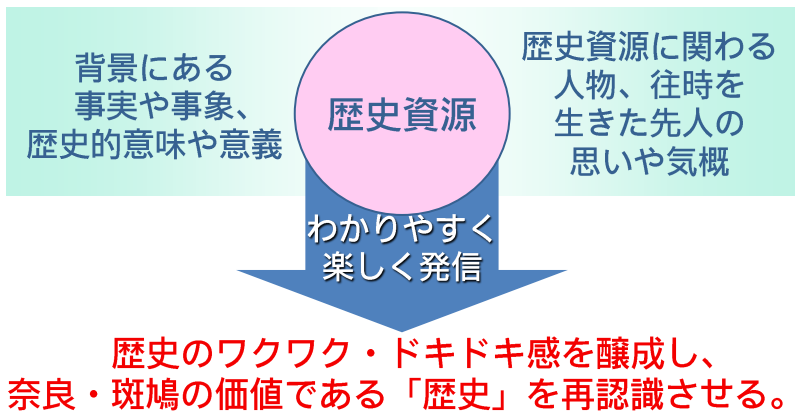
総合的な観光推進体制の整備

2021年の「聖徳太子1400年御遠忌」に向け、法隆寺・奈良県・周辺市町村・マスコミなどがさまざまなイベントなどを計画しています。
それらの動きに合わせて、記念イベント、観光プロモーション、WebやSNSなどのソフト整備、さらにはインフラ整備をすすめ、相乗効果を狙います。
「聖徳太子とその思い」というイメージを広める機会とします。



歴史ものがたりの観光活用

斑鳩町の魅力・価値である歴史・文化について、外部の人からは「世界遺産 法隆寺」などの寺院建築や「藤ノ木古墳」などの遺跡といった「歴史資源」としてしか、表面的にはわかりません。
斑鳩町の「魅力」を伝えるためには、歴史資源を解説するのではなく、その歴史資源の背景となる意味や意義等をわかりやすく、その現場で体感的に展示することにより可能となります。
単に、斑鳩の地に観光で訪れた人々に、「知識としての歴史」を伝えるのではなく、往時を生きた先人の「思い」や「気概」を基に、体感的・物語的に展開することによって、「歴史のワクワク・ドキドキ感」を伝え、斑鳩の価値である「歴史」を来訪者に認識してもらえるような歴史ものがたりの展開をはかります。



多くの歴史資源・継承されている文化がある

斑鳩に暮らす人々の長年の営みにより、世界文化遺産に登録されている「法隆寺地域の仏教建造物」をはじめとした歴史的・文化的資源、伝統ある集落やその町並みが一体となった固有の環境や景観が生まれ、そして、現在も維持されています。

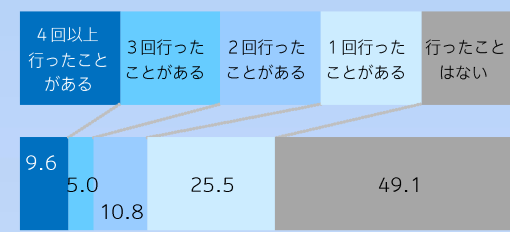
「まちあるき観光」へのとりくみが始まっている

『法隆寺周辺地区特別用途地区』の指定による規制緩和が実施された2014（平成26）年10月1日以降に新しく出店した店舗があり、民間でのまちあるき観光の拠点づくりにむけた機運が高まってきています。また、斑鳩町内での滞在時間を伸ばすために、「いかるがWeeeeeK」などの各種イベントを実施しています。

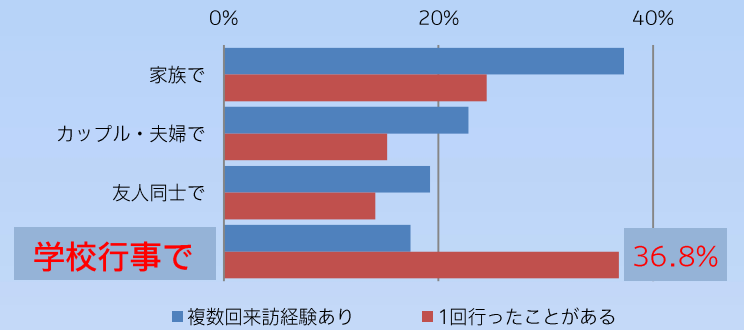
再来訪経験・意向が高い

調査の結果、斑鳩町への再来訪経験・再来訪の意向が高いことがわかりました。また、斑鳩町訪問1回の経験者は、遠足・修学旅行での訪問であり、訪問回数が増えるごとに、家族やカップル・夫婦など、多様な形態での来訪機会があることがわかりました。

【Q.あなたは、「斑鳩町」に行かれたことがありますか？】



【Q.「斑鳩町」に誰と行かれたましたか？】

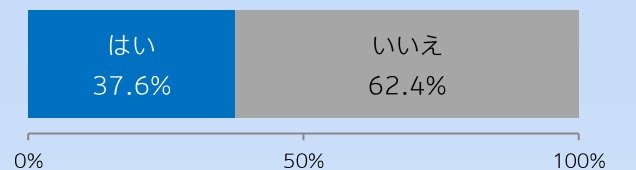


観光の課題

世界遺産・法隆寺中心の観光になっている

斑鳩町の魅力として「法隆寺」と感じている人が圧倒的に多いことがわかりました。観光動向調査からは、法隆寺だけの来訪目的者が38%を占めていました。また、斑鳩町の魅力・認知・来訪経験・再来訪意向など、すべての調査項目で「法隆寺」が一番であり、その他の項目と大きな差があることがわかりました。

【Q.（今回の旅行は）法隆寺だけの訪問ですか？】



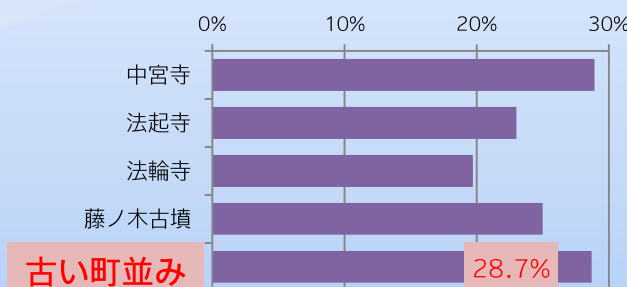
若年層の女性を呼び込む観光施策が必要

斑鳩町の魅力について、男女とも60代で数多く認知されているのに対し、女性では、10～20代・30～40代と若年になるに従い、やや少なくなっていることがわかりました。

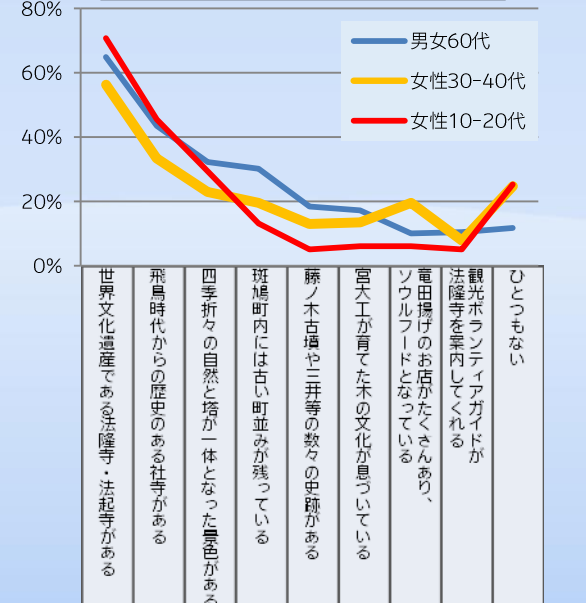
新しい魅力のアピールが必要

斑鳩町にある、古い町並みやイベント・グルメなどについては、斑鳩町の観光資源として、さらに充実させアピールする必要があります。

【Q.斑鳩町の観光地でいってみたい観光地は？】



【Q.「斑鳩町」の特徴の中で、ご存じのものをすべてお知らせ下さい。】

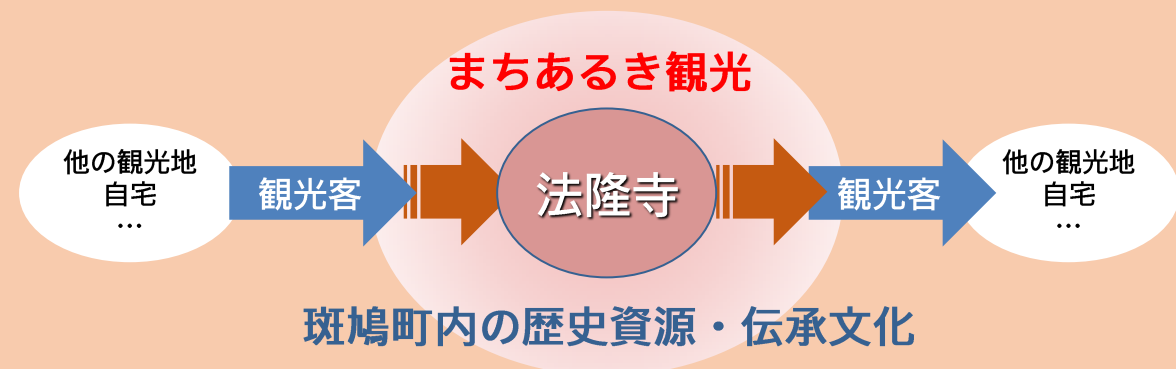


「法隆寺」中心の観光から「まちあるき観光」へと転換をはかります。

これまでの斑鳩町での観光は「法隆寺」だけを拝観して帰る「点」型の観光でした。斑鳩町のもつ「歴史的風致」を散策・回遊型のまちあるき観光へつなげていきます。

新たな観光産業を発展させ、「ワクワク・ドキドキするまち」を目指します。

「法隆寺＝斑鳩町」のイメージを脱却し、古い町並みやグルメなどの新しい観光資源を生かした新たな観光産業を発展させ、まちのにぎわいを創出します。



① 聖徳太子の息吹を感じる演出づくり

『聖徳太子1400年御遠忌』に向けて、先行的に「法隆寺」への観光ルートの整備を行い、斑鳩町を訪れる人が聖徳太子の息吹を感じることができるまちをめざします。イベントやホームページ等の充実により、聖徳太子とその思いが息づくまちというイメージを広くPRし、法隆寺周辺から範囲を広げて観光地としての演出を行います。



史跡中宮寺跡整備 完成予想図

③ 魅力発信とリピーターづくり

斑鳩町に何度も足を運んでいただけるように、情報発信の強化、観光拠点の増加、観光インフラの整備、観光イベントの開催などを推進します。旅行意向を持つ人々に対して、「法隆寺」だけでない様々な「魅力・価値」がある観光地としての斑鳩町を伝えます。また、再来訪の間隔を短くし、その頻度を上げるための工夫を行います。



藤ノ木古墳石室特別公開

② まちあるきを楽しむ斑鳩の里づくり

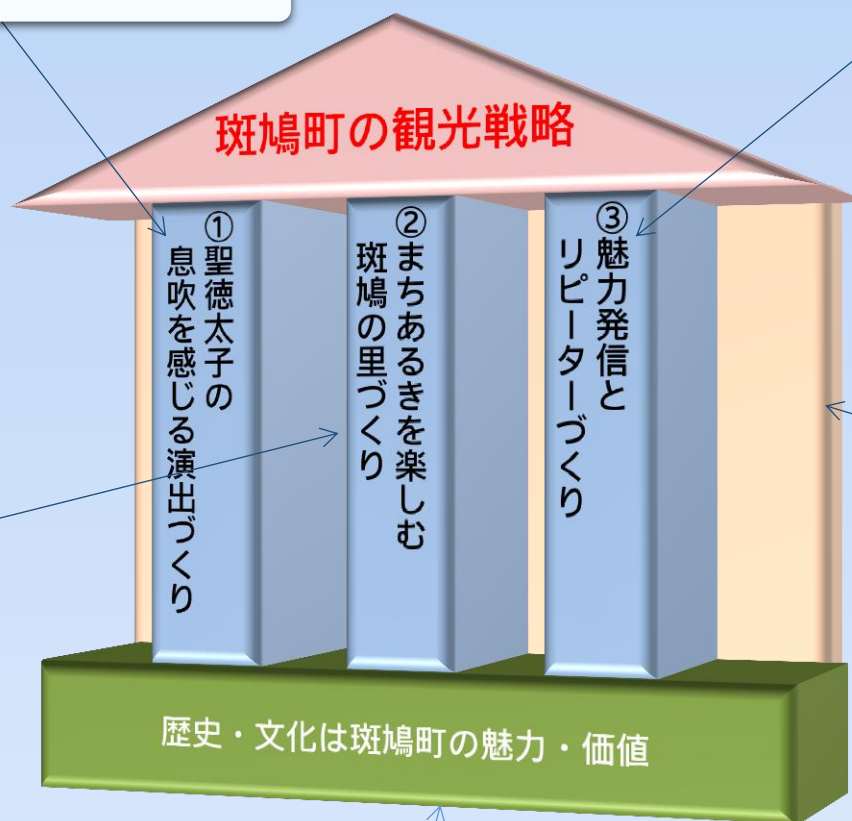
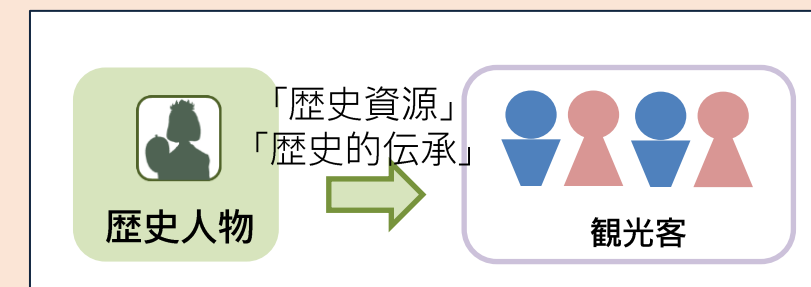
“世界遺産・法隆寺”を目的に来訪した観光客が、斑鳩町をよりゆっくりと楽しむことができるしくみを創出し、町内での滞在時間の拡大をはかります。より多くの観光客が斑鳩町を楽しむと同時に、斑鳩町の産業の活性化につなげていくとくみをすすめます。斑鳩町の新しい観光資源としての活用が始まっている「古い町並み」について、より多面的に行い、「法隆寺」と並ぶ、新しい観光の中心として整備を進めます。



三町にある古民家 (左：布穀園 / 右：あいておもい)

④ 歴史ものがたりの観光活用

斑鳩町が積み重ねてきた歴史に観光客は関心があります。斑鳩町の歴史そのものが「観光資源」です。歴史を伝えることは単に「歴史資源」や「歴史的伝承」を見せることや伝えることではなく、斑鳩の里を作り・伝えてきた人々の姿を伝えることです。人々を中心とした歴史を伝えることで、「歴史資源」や「歴史的伝承」に新しい魅力を付け加えます。



歴史・文化を斑鳩町の魅力・価値の中心に据えることが、観光振興の戦略の基本であり、全体的な観光振興策の土台です。

斑鳩町の持つ「大きな観光資源」は、その多くが歴史・文化に関するものです。それらの資源・環境・景観は斑鳩町の持つ「価値」であり、観光においては「魅力」です。